

令和 8 (2026) 年度 日本体育大学 大学院 入学式 (研究科長代表式辞)

本日入学された皆様、日本体育大学大学院へのご入学、誠におめでとうございます。体育学研究科、教育学研究科、保健医療学研究科を代表しまして、お祝い申し上げます。また、これまで新入生の方々を支えてこられたご家族、関係者の皆様方にも、心からお喜び申し上げます。

みなさんが入学された本学の大学院は昭和 50 年 1975 年に体育学の修士課程が設置されたことから歴史が始まります。平成 10 年 1998 年に体育科学研究科として博士課程が設置され、現在は 3 研究科に修士号、博士号を授与できる課程を擁する大学院に発展し、身体にまつわる諸問題を扱う、我が国を代表する研究拠点になっています。

さて、本日は、これからの皆さんの大学院での生活、過ごし方とはどのようなものになるのかという話をしたいと思います。

今年の 2 月に冬季オリンピック・パラリンピックのミラノ・コルティナ大会が開催されました。各国選手の素晴らしい競技に感動された人も多いと思います。1896 年以来、130 年続くオリンピックでは、4 年間をオリンピックアドと呼びます。これはオリンピズムの重要な柱であるスポーツを通じての人間形成をなす時間であるとされています。厳密に言えば、オリンピックアドとは夏季大会の 4 年間を指していますが、冬季の大会も 4 年間の意味を重視するという点では、夏季大会のオリンピックアドの考えが当てはまります。

ミラノ・コルティナ大会では、本学同窓生の高木美帆さんが素晴らしい活躍をされました。メダルの獲得もさることながら、世界中の人に感銘を与えたのは、「より高みを目指す」姿勢を貫いたことだったのではないかと思います。多くの苦しみ、悩み、プレッシャーの中で、常に高みを目指す姿は、オリンピックアドを生きる競技者の理想像を現実に示してくれました。この姿は、学問を追求する研究者と重なり合います。

これから皆さんは学問研究の競技者として、研究生活に入ります。修士論文、博士論文を仕上げるためのトレーニングに入るわけです。研究活動では、スポーツの競技者と同様に、自分の意志で高い目標を立て、そこに向かって努力を重ねることが必要です。皆さんが過ごすことになる 2 年間あるいは 3 年間は、象徴的な意味で、自分にとっての学問的オリンピックアドになります。その期間は皆さんにとって、文献を読むための体力と技術を養い、調査や実験の技術・技法を磨き、一人で考える思索の時間を耐え、執筆の力を爆発させる時間です。学会発表や公開発表会はスパーリングや練習試合です。学位論文完成の途上で、時には厳しい指摘を、時には温かい励ましの言葉を、先生方や他大学の研究者の方などからも、かけてもらうことがあるでしょう。この日体大の大学院で、学問的オリンピックアドの時間で、皆さんは今日から、探究するものとしての人間形成をおこなっていくことになるのです。

人間にとって一日は 24 時間であり、与えられている時間は客観的には平等です。しかし、スポーツの競技者の 24 時間は、普通の人の 24 時間と同じではありません。零コン

マ一秒を削り出すための創意工夫と試行錯誤、プレッシャーに堪えうる人間になるための努力と献身、日々の生活の中に自分が高みへ上るための気力体力知力のすべてを投入し、普通の人々の1時間を2時間、時には5時間分生きます。1時間に2時間、時には5時間分の内容を込めた競技人生の経過を織り込んで、試合やレースを準備していると考えられます。それが、よく生きる、充実した人生を生きるということです。

研究者としての競技者である皆さんも、与えられた客観的な時間を、学問の真理を探し、自分の高みを目指す濃密な、充実した時間にしてほしいと思います。一日を文献解釈、思索、実験・調査、分析、議論、修正、執筆で濃密に生きて、博士前期課程の2年間、博士後期課程の3年間でそれぞれ4年間、6年間に相当する充実した、濃密な人生としてください。その先に、皆さんが大学院でよく生きた証としての学位記授与が用意されているのです。

真理探究に向かう前途有望な皆さんが、この大学院で充実した研究生生活を送られ、成果をつかめますよう、研究科を代表して祈念し、式辞といたします。

令和8年4月3日

日本体育大学大学院 研究科長代表 関根正美